

# 第2期データヘルス計画書

---

計画策定日：平成 年 月 日

最終更新日：平成 年 月 日

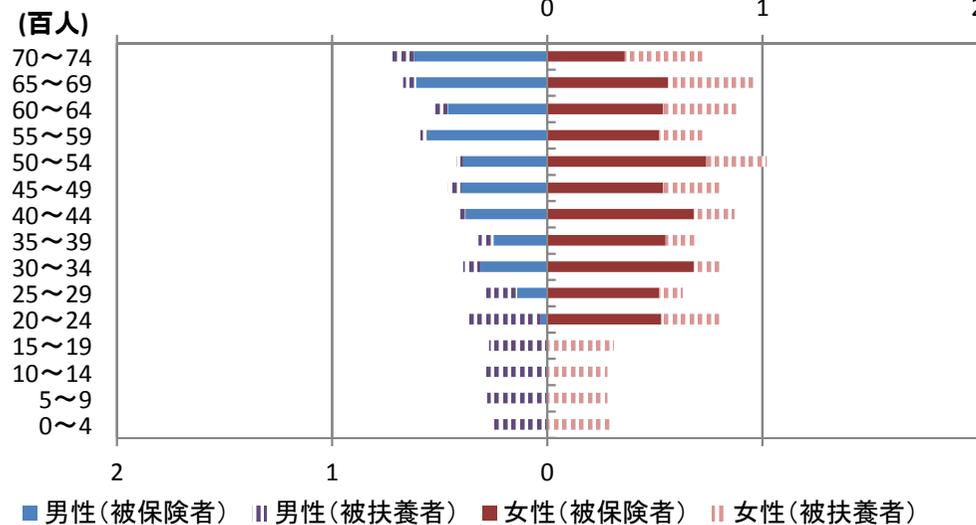
北海道薬剤師国民健康保険組合

# STEP 1 - 1 基本情報

組合コード	013029
組合名称	北海道薬剤師国民健康保険組合
形態	単一
被保険者数（平成30年度予算 注） * 特例退職被保険者を除く。	1,638名 男性38.4%（平均年齢0.0歳）* 女性61.6%（平均年齢0.0歳）*
特例退職被保険者数	0名
加入者数（平成30年度予算 注）	0名
適用事業所数	0カ所
対象となる拠点数	0カ所
保険料率（平成30年度 注）*調整を含む。	0%

	全体	被保険者	被扶養者
特定健康診査実施率（平成28年度）	37.7%	0.0%	0.0%
特定保健指導実施率（平成28年度）	6.5%	0.0%	0.0%

		健康保険組合と事業主側の医療専門職 （平成30年3月末見込み）	
		常勤	非常勤
健保組合	顧問医	0	0
	保健師等	0	0
事業主	産業医	0	0
	保健師等	0	0



(注) 記載要領参照

※被保険者は女性が多い。また、男性は50代以上が多い

※当健保組合には、医療専門職が不在

保健事業費	予算額（千円） （平成30年度 注）		被保険者一人当たり金額 （円）	
	予算額	被保険者一人当たり金額	予算額	被保険者一人当たり金額
特定健康診査事業費	4,312	2,631		
特定保健指導事業費		0		
保健衛生普及費	3,210	1,959		
検診費	8,500	5,186		
死亡見舞金	490	299		
総務一般管理費	1,200	732		
その他		0		
小計 …a	17,712	10,807		
経常支出合計（千円） …b				
a/b×100（%）		0.00		

# STEP 1 - 2 保健事業の実施状況

健保組合の取組															
予算科目	注1) 事業分類	事業名	事業の目的および概要	対象者					事業費(千円)	振り返り			注2) 評価		
				資格	対象事業所	性別	年齢	対象者		実施状況・時期	成功・推進要因	課題及び阻害要因			
特定健康診査事業	1	特定健診	【目的】生活習慣病リスクの把握、特定保健指導対象者の抽出 【概要】単独受診、またはドックや集団検診と併せて受診し健診結果を共有。	被保険者	全て	男女	40	～	74	全員	2,993	受診者数363名 (平成30年5月末)	特定健診のみの受診のほかに、ドック受診時や事業者健診データ提供によるの結果も共有。	受診率の向上	
	3	特定保健指導	【目的】対象者の生活習慣改善、生活習慣病ハイリスク者の減少 【概要】個別契約または集合契約している医療機関を各自で選択・受診する保健指導を希望者へ実施。	被保険者	全て	男女	40	～	74	全員	4	H29年度利用者5名 【終了者1名、喪失者2名、利用中2名】 (平成30年4月末)	ドック契約一部医療機関と当日指導利用個別契約を行う。	実施率の向上(受診体制の強化などが必要)	
	3	(重症化予防)生活習慣病ハイリスク者の受診勧奨	【目的】生活習慣病のハイリスク者に対する医療機関への受診勧奨 【概要】特定健診における保健指導該当者に対し、高血糖・高血圧・脂質異常症の検査結果によりハイリスク者を特定する。	被保険者	全て	男女	40	～	74	基準対象者	10	受診勧奨数値該当者のうち、対象者へ受診勧奨を行う。また、疾病リスク数値の持つ意味についての情報提供、数値改善のアドバイス提供を冊子等で行う。	対象者の個々の検査結果に応じ、細分化した分析結果や現状に対する助言を冊子とし、受診勧奨を図った。	受診率の向上(受診勧奨の方法を増やし、医療機関への受診勧奨を図る)	
検診費	1	人間ドック・脳ドック・がん検診	【目的】健康状態の把握、生活習慣病・疾病重症化予防、特定健診受診率向上 【概要】委託契約病院での受検費用補助。組合員(50,000円)・その他(40,000円)。	組合加入1年以上	全て	男女	全員		全員	7,962	受検者数236名 (平成29年度支払分)	組合加入1年以上、何歳からでも受検可能のため、若い時から健康意識を実感できる。	特定健診対応不可の委託契約病院がある。		
保健衛生普	1	人間ドック・脳ドック・がん検診	【目的】健康状態の把握、生活習慣病・疾病重症化予防 【概要】委託契約病院での受診後、後日申請書により7,000円まで補助。	ドック受診者	全て	男女	全員		全員	1,107	受検者数179名 (平成29年度支払分)	何歳からでも受検可能のため、若い時から健康意識を実感できる。ドック項目にはない、婦人科検診等受診者の気になる項目を受診できる。	医療機関により項目が様々。		
	7	ジェネリック医薬品差額通知	【目的】ジェネリック医薬品の利用促進による医療費の削減 【概要】対象者に対する差額通知の送付。	被保険者	全て	男女	0	～	74	全員	31	5月、9月、1月診療分年3回送付	ジェネリック医薬品へ切り替えた場合の具体的な金額が表示されるため、薬代削減への意識付けになり、医療費削減につながる。	差額通知だけでなく、様々な方法で周知を図る。	
	7	医療費通知	【目的】医療費実績による健康意識への働きかけ、医療費適正化 【概要】年4回、対象者へ送付。	被保険者	全て	男女	0	～	74	全員	244	年4回	医療費の状況を確認することで、抑制を図り健康への意識も高められる。	-	

# STEP 1 - 2 保健事業の実施状況

種別	事業名	【目的】	【概要】	対象者	性別	年齢	人数	実施状況	備考
普及費	4 各種育児誌の配布	【目的】母子の健康保持、情報提供【概要】「やさしい離乳食」や月刊誌「赤ちゃん和妈妈」を1年間、季刊誌「1歳、2歳、3歳」を3年間送付。	出産した被保険者	全て	男女	0 ~ 74	82	8件（平成29年12月末）	-
	7 健康家庭表彰	【目的】健康保持、特定健診受診率向上【概要】4月から1年間医療費を使用しなかった世帯及び特定健診対象者には健診受診した世帯に対し、被保険者一人当たり12,000円相当の記念品贈呈。	被保険者	全て	男女	0 ~ 74	420	34件（平成29年10月）	健康への意識向上及び、特定健診受診。
	7 長寿祝金の贈呈	【目的】高齢者組員への支給【概要】高齢者組員77歳30,000円、80歳30,000円88歳5万円99歳5万円支給。	組員	全て	男女	77歳 80歳 88歳 99歳	500	16件（平成29年9月）	-
一般管理費	7 レセプト及び柔整療養費点検等	【目的】医療費適正化【概要】レセプト点検→資格及び診療内容の確認。柔整受診内容調査→資格施術内容の確認。	被保険者	全て	男女	0 ~ 74	1,137	(外部委託) 医科・調剤→毎月及び4か月分縦覧 歯科レセプト点検→年4回 柔整点検→毎月	受診の適正化、重複・頻回受診対策
死亡見舞金	7 死亡見舞金	【目的】高齢者組員への支給【概要】高齢者組員本人が死亡した場合、70,000円支給。	組員	全て	男女	75歳以上	280	8件（平成30年3月末）	-

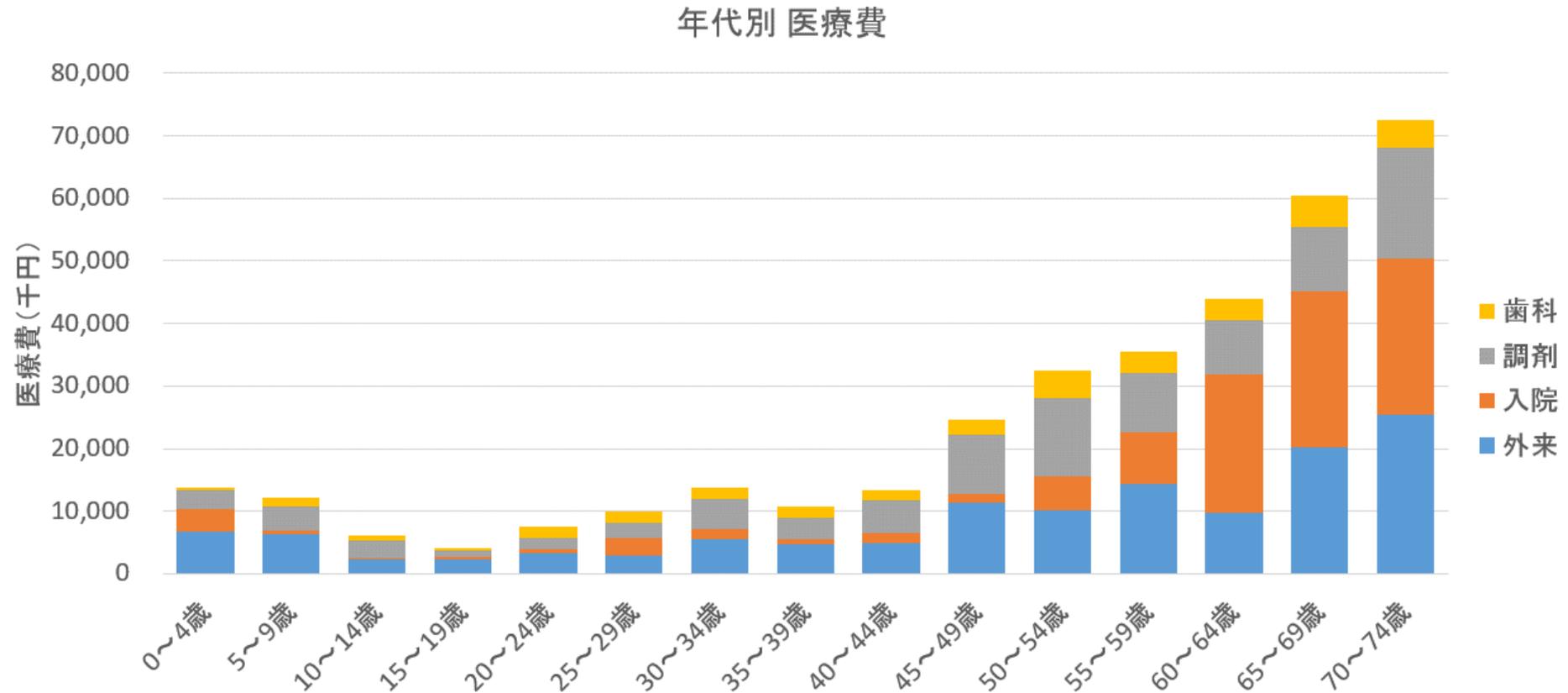
事業名	事業の目的および概要	対象者			振り返り			共同実施
		資格	性別	年齢	実施状況・時期	成功・推進要因	課題及び阻害要因	

注1) 1. 健康診査 2. 健康診査後の通知 3. 保健指導 4. 健康教育 5. 健康相談 6. 訪問指導 7. その他  
 注2) 1 : 39%以下 2 : 40%以上 3 : 60%以上 4 : 80%以上 5 : 100%以上

### 既存事業の課題

- ・特定健診の受診率が低い
- ・毎年生活習慣指導の対象となる者がいる

## STEP 1 -3 レセプトデータによる現状把握（年齢階層別 医療費）

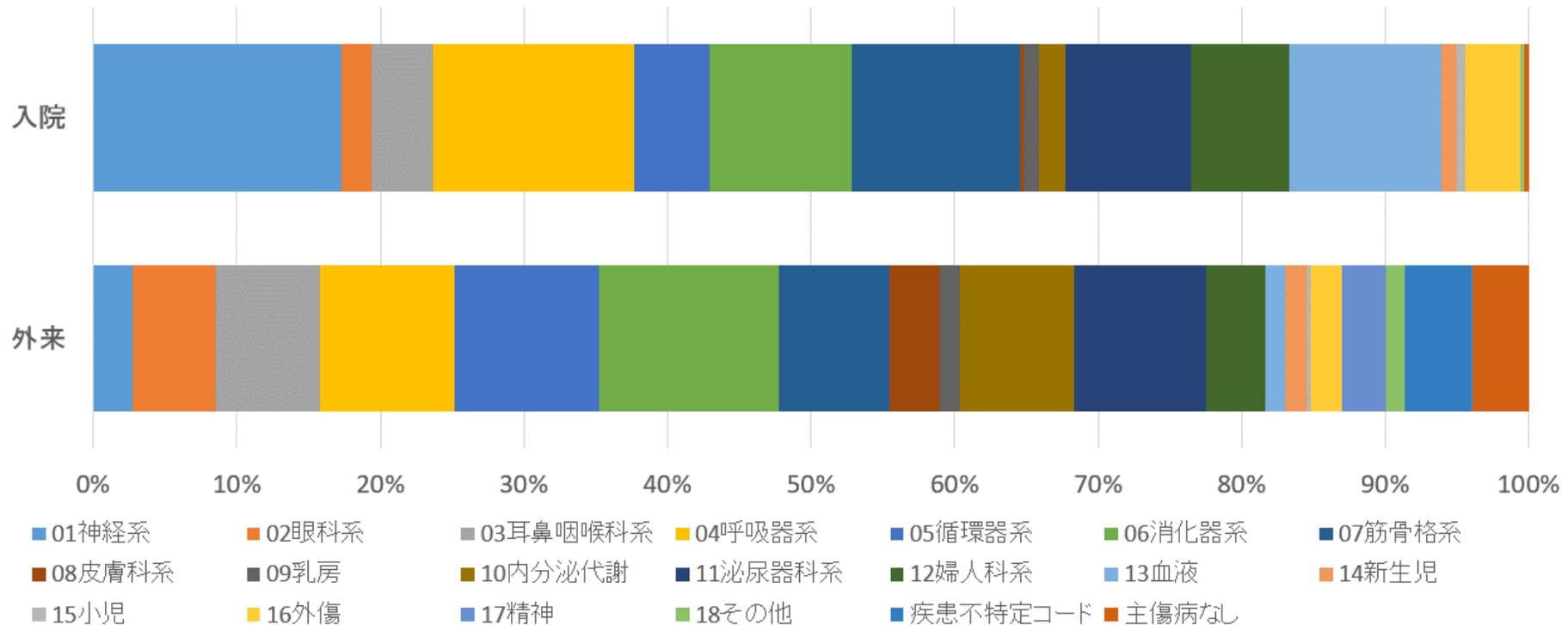


- ・50歳以上の医療費が多くなっている
- ・20歳未満の医療費は少ない

※医療費は本人負担額も含めた金額

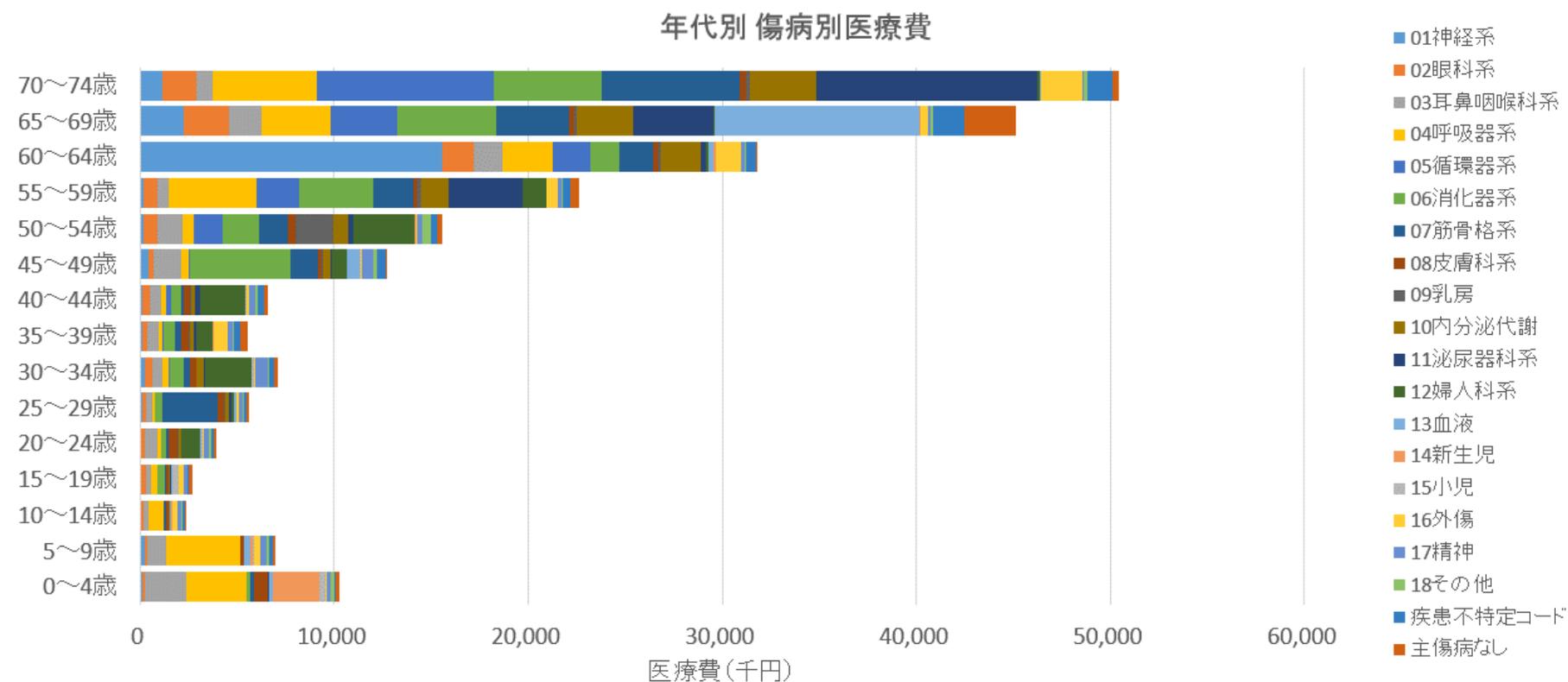
## STEP 1 -4 レセプトデータによる現状把握（医科医療費 入院・外来 疾患内訳）

傷病別医療費比率



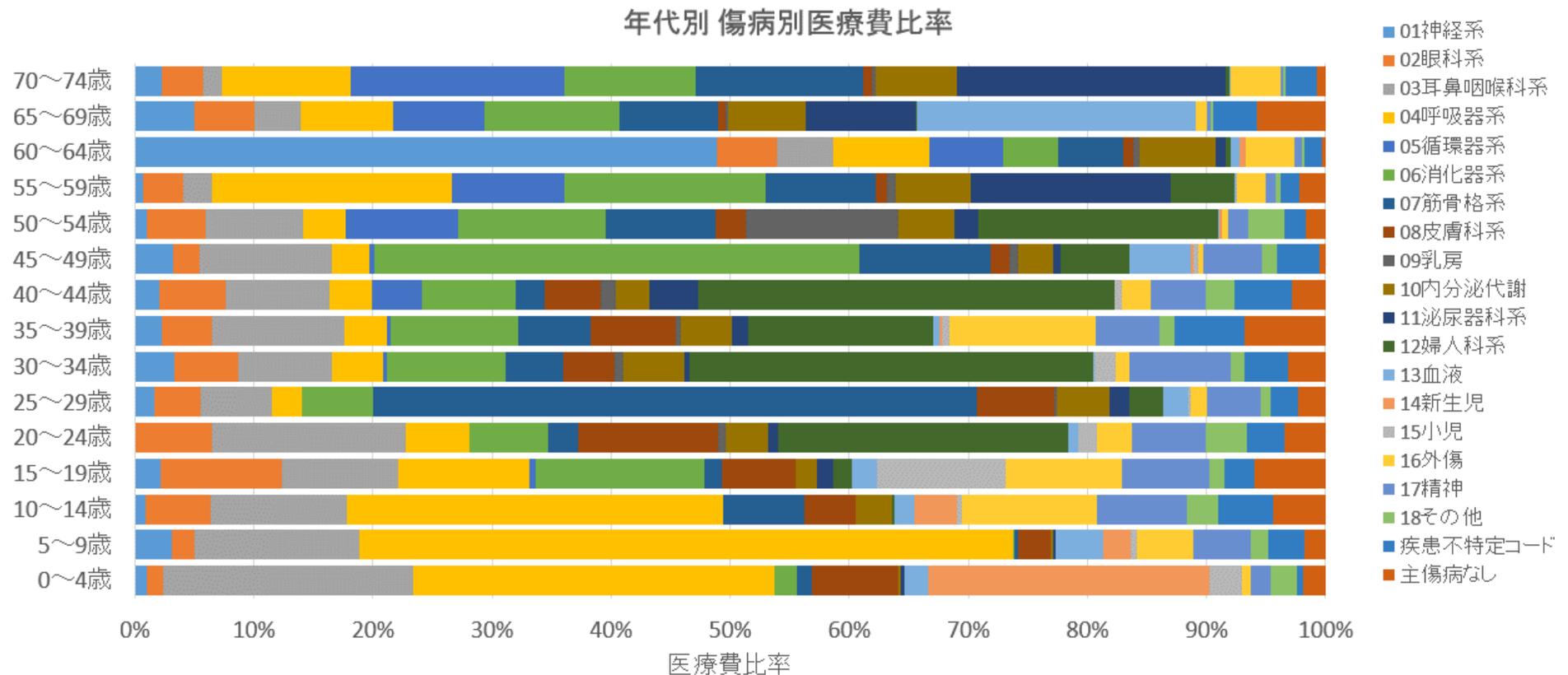
- ・入院医療費は消化器系疾患や神経系疾患(脳梗塞等)の比率が高くなっている
- ・外来は消化器系疾患や循環器系疾患の比率が高くなっている

## STEP 1-5 レセプトデータによる現状把握（医科医療費 年代別疾患内訳）



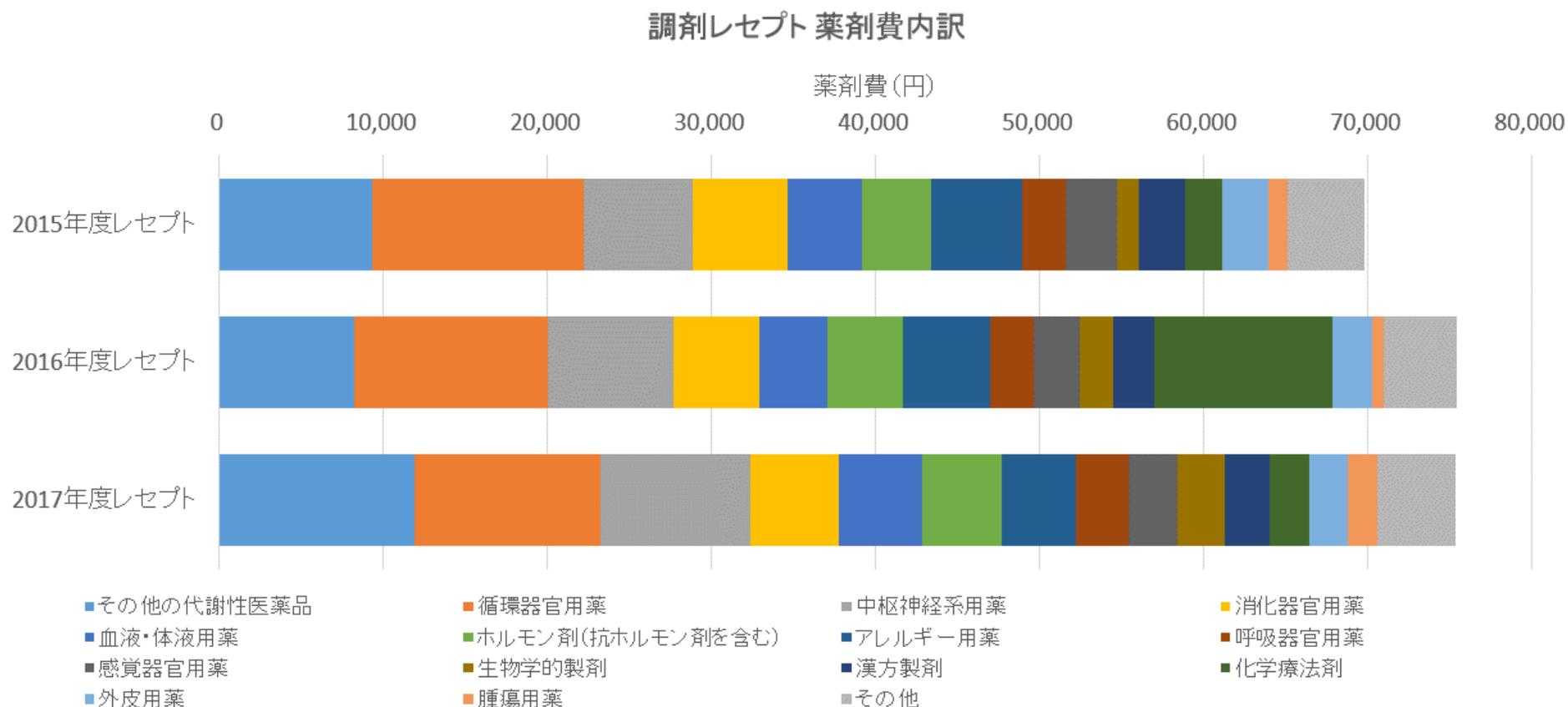
- ・若年層では呼吸器系疾患の医療費が高くなっている
- ・50代以上では神経系疾患や循環器系疾患などが高くなっている

# STEP 1-6 レセプトデータによる現状把握（医療費比率 年代別疾患内訳）



- ・医療費の多くなる50代以上では、消化器系疾患や循環器系疾患の比率が高くなる
- ・20代、30代では、婦人科系疾患の金額が目立つ(医療保険での出産を含む)
- ・10代未満では呼吸器系疾患の比率が高くなっている。加えて5歳未満では、新生児疾患の比率が高くなっている

## STEP 1 -7 レセプトデータによる現状把握（調剤医療費 薬剤の内訳）



・糖尿病治療薬等のその他の代謝性医薬品が最も高く、ついで循環器官用薬、中枢神経系用薬の順となっている

## STEP 1 -8 生活習慣病 未受診者の状況

高血圧	レセプトなし	レセプトあり	
		関連薬剤なし	関連薬剤あり
正常	Low Risk 20	Low Risk 154	30 <small>Controlled</small>
指導	6 <small>Level 1</small>	39	17 <small>Controlled</small>
要治療	Level 3 8	Level 2 28	12 <small>Controlled</small>

糖尿病	レセプトなし	レセプトあり	
		糖尿関連なし	糖尿関連あり
正常	Low Risk 14	Low Risk 113	30 <small>Controlled</small>
指導	17 <small>Level 1</small>	77	40 <small>Controlled</small>
要治療	Level 3 3	Level 2 6	14 <small>Controlled</small>

脂質異常症	レセプトなし	レセプトあり
正常	14 <small>Low Risk</small>	122
指導	7 <small>Level 1</small>	85
要治療	Level 2 13	73 <small>Level 1</small>

表の見方:

縦軸: 高血圧、糖尿病、脂質異常症の特定健診の検査結果  
 横軸: 医科・調剤のレセプトの有無、に疾患固有のレセプトの有無  
 (高血圧)高血圧の治療に用いる薬剤の処方があるかないか  
 (糖尿病)糖尿病の治療薬、検査、処置等から総合的な判断  
 (脂質異常症)単純な医科・調剤レセプトの有無のみの判断

特定健診受診者 314名中の状況

- ・高血圧は要治療レベルであっても、一部の被保険者は医療機関にかかっていない
- ・糖尿病は要治療レベルの人数は高血圧のその人数に比べ少ないものの、医療機関にかかっていない人が一定数見られる

⇒特定健診の検査結果が悪い加入者に対し、早期に医療機関への受診を促すことが重要

## STEP 1 -9 生活習慣病 重症化予防の状況

血圧	レセプトあり・高血圧関連あり		
	Step1 1剤	Step2 2剤	Step3 3剤
正常	23	7	0
指導	10	6	1
要治療	10	2	0
合計	43	15	1

血糖値	レセプトあり・糖尿関連あり			
	Stage1 経口薬	Stage2 複数経口薬	Stage3 インスリン	Stage4 透析
正常	30	0	0	0
指導	38	1	1	0
要治療	4	9	1	0
合計	72	10	2	0

表の見方:

高血圧治療薬の処方のある加入者のみが対象

縦軸: 高血圧の特定健診の検査結果

横軸: 高血圧の治療薬の処方状況

高血圧治療薬の処方内容に基づき、重症度を判断

Step1は軽症、Step2は中程度、Step3は重症

表の見方:

糖尿病関連のレセプトのある加入者のみが対象

縦軸: 糖尿病の特定健診の検査結果

横軸: 糖尿病の診療内容に基づく総合的重症度判断

処方薬、治療内容を点数化し、Stage1(軽症)から

Stage4(重症)まで判断

・高血圧は特定健診の検査結果が正常・要指導レベルであっても、2剤・3剤服用者が見られる  
 ・糖尿病は透析に至らないレベルや、インスリンに至らないレベルなど、重症化する前の段階での治療が重要であり、糖尿病で医療機関を受診していても血糖コントロールが上手くできていない人(要治療でStage2、3の人)が見られる  
 ⇒治療薬服用者で検査結果の悪い人に対し、服薬アドヒアランスの確認や生活習慣の改善提案をすることにより、重症化予防をすべきと考えられる

## STEP 2 健康課題の抽出

### 基本分析による現状把握から見える主な健康課題

### 対策の方向性

#### 特徴

#### 対策検討時に留意すべき点

基本情報

- ・被保険者の年齢構成について、60代、70代の比率が高い
- ・医療費は全体のうち60代以上の占める比率が高い
- ・60代以上は外来に比べ入院医療費の割合が高く、神経系疾患や循環器系疾患などの生活習慣病の金額が高くなっている

- ・生活習慣病の医療費が高くなる前に、生活習慣の見直しなどの対策を検討すべき
- ・高血圧、糖尿病などの疾患の状況に応じ、医療機関への受診勧奨や、重症化を防ぐための効果的な治療を受診できるよう検討すべき

保健事業の実施状況

- ・特定健診の受診率向上に力を入れている
- ・年齢を制限せず人間ドックの受診に対し補助することで、健康状態の把握、健康増進に対する意識向上に努めている
- ・ジェネリック医薬品の利用促進により適正な医療費使用を促している

- ・特定健診を毎年受診していない被保険者に対し、効果的な受診勧奨方法を検討すべき
- ・ジェネリック医薬品のさらなる利用を促すには、医療費の適正な使用促進に対する認識が不足している前提で対策を検討すべきか

# STEP 3 保健事業の実施計画

予算科目	注1) 事業分類	事業名	事業の目的および概要	対象者			実施計画					目標 (達成時期 : 平成29年度末)	
				資格	年齢	対象者	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度	アウトプット

職場環境の整備													
加入者への意識づけ													
個別の事業													

注1) 1. 健康診査 2. 健康診査後の通知 3. 保健指導 4. 健康教育 5. 健康相談 6. 訪問指導 7. その他  
 注2) 1. 健保組合 2. 事業主が主体で保健事業の一部としても活用 3. 健保組合と事業主との共同事業

特定健康診査等事業	1	既存	特定健診	【目的】生活習慣病リスクの把握、特定保健指導対象者の抽出 【概要】単独受診、またはドックや集団検診と併せて受診し健診結果を共有。	被保険者	40~74	全員	通年(4/1~3/31)	継続	継続	継続	継続	継続	継続	・特定健診受診勧奨、特定保健指導対象者への実施案内 ・組合にて日曜検診実施	生活習慣病ハイリスク者の抽出、健康への意識付け(受診率70%達成目標)
	3	既存	特定保健指導	【目的】対象者の生活習慣改善、生活習慣病ハイリスク者の減少 【概要】個別契約または集合契約している医療機関を各自で選択・受診する保健指導を希望者へ実施。	被保険者	40~74	全員	通年(健診結果を基に特定保健指導開催案内を送付し実施)	継続	継続	継続	継続	継続	継続	該当者へ受診勧奨、希望者への特定保健指導	対象者の生活習慣改善、生活習慣病ハイリスク者の減少(実施率30%達成目標)
	3	新規	(重症化予防)生活習慣病ハイリスク者の受診勧奨	【目的】生活習慣病のハイリスク者に対する医療機関への受診勧奨 【概要】 ・特定健診、ドックにおける高血糖・高血圧・脂質異常症の検査結果によりハイリスク者を特定する。 ・リスクの状況に応じ、医療機関への受診勧奨を行う。 (ドック受診者も対象とし、40歳未満の若年層も対象とする)	被保険者	0~74	基準対象者	平成30年度6月以降実施	継続	継続	継続	継続	継続	継続	ドック及び特定健診受診者のうち、受診勧奨数値該当者へ受診勧奨を行う。また、疾病リスク数値の持つ意味についての情報提供、数値改善のアドバイス提供を冊子等で行う。	生活習慣病ハイリスク者の未受診者減少(対前年度対比での減少)
検診費	1	既存	人間ドック・脳ドック・がん検診	【目的】健康状態の把握、生活習慣病・疾病重症化予防、特定健診受診率向上 【概要】委託契約病院での受検費用補助。組合員(50,000円)・その他(40,000円)。	組合加入1年以上	全員	全員	通年	継続	継続	継続	継続	継続	継続	受検費用補助	健康状態の把握、生活習慣病・疾病重症化予防、特定健診受診率向上
保健衛生普及費	1	既存	人間ドック等オプション検査	【目的】健康状態の把握、生活習慣病・疾病重症化予防 【概要】委託契約病院での受診後、後日申請書により7,000円まで補助。	ドック受診者	全員	全員	通年	継続	継続	継続	継続	継続	継続	受診費用補助	健康状態の把握、生活習慣病・疾病重症化予防、特定健診受診率向上
	7	新規	全業連健康ポイント	【目的】健康づくりに対する日々の自主的な取り組みを促し、健康意識向上・健康増進 【概要】全業連で委託業者と契約し、日々のウォーキングや特定健診及び保健指導の受診に対しポイントを付加し、希望商品との交換できる制度。また、健康情報、健康レシピ等の情報提供。	全員	全員	全員	平成30年7月以降	継続	継続	継続	継続	継続	継続	外部委託ポイント交換経費助成	健康意識向上・健康増進・特定健診受診率及び保健指導受診率の向上
	1	既存	ジェネリック医薬品差額通知	【目的】ジェネリック医薬品の利用促進による医療費の削減 【概要】対象者に対する差額通知の送付。	被保険者	0~74	全員	5月、9月、1月診療分年3回送付	継続	継続	継続	継続	継続	継続	差額通知の発送	薬代削減(使用率50%達成目標)

